

学部名	外国語学部	学科名	外国学科
-----	-------	-----	------

外国学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	日本の文化・歴史・芸術などについて、海外で英語で語れるようになるために日本に関する知識を身につけている。また、諸外国人と英語で正確なコミュニケーションをとるために英語学(音声学や文法や言語の構造)に関する知識を身につけている。教職希望者は教育現場で英語を指導できる知識を身につけている。さらに、国際ビジネスに関する専門的知識と、人間関係の築き方やリーダーシップの取り方を理解している。
DP2	思考・判断	海外留学で異文化を体験することによって、冷静かつ論理的に思考し、公正な判断をする力を身につけている。また、インターネット等で集めた情報のうち有用なものを吟味して仕事や研究の分野で活用でき、論理的に思考し、説得力のある文章を書ける力を身につけている。
DP3	技術・行動	外国のいかなる地域においても他者を尊重し、英語で正しく自国と自分とを語るができるコミュニケーション力と自己表現力を備えている。さらに、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題を発見し、主体的に解決する行動力を持っている。また、演習科目では集団活動や共同研究で共に学び、ともに取り組む姿勢を身につけ、専門諸科目を通して身につけた教養と問題発見・解決能力で世界を舞台に活動している企業や民間団体などでも積極的に行動できる能力を身に付ける。
DP4	態度	日本の文化に興味をもち、海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ		2	1	受講者には海外留学、またその先の社会への出立に際して、国際人としてもつべき基本的な知識や態度、吉備国際大学の出身者として身につけて欲しい気概を理解していただきたい。そのうえで、世界の中にある自らの存在理由を問う人へと一歩を踏み出すこと、これが本講義の到達目標である。外国学科がどのような理想を持ち、どのような意図で運営されているのか。地域社会の中で、いかなる存在として認められたいのか。世界に飛翔する、あるいは一隅にあって常にも世界をも射程に入れておくために有用な知見を伝えたい。	◎			
	地域学概論		2	1	現代の社会経済の流れと平行した地域を媒介とした人びとの生活は、人びとの関係が希薄化してきたことに象徴されるように、生き方の基盤ともなるべき文化創造と密接不可分である。山川草木としての自然との接触からの乖離、あるいは地域の資源を活かした仕事づくりからの後退、そして地域を媒介にした近隣でなされていた助け合いや援助の衰退など、これらを再創造する必要性が現在では大きくなっている。そこで、本講義では、それぞれ地域での生活を成り立たせようとする企画・計画し、現地でそれを生かそうと活躍する方々を講師を招き話をしてもらうことで、学生が地域社会の現状を把握できるようになることを目的としている。もちろん、これは講師の話に対する、聴く力、疑問をもつ力、尋ねる力、そして自分で調べる力、さらにはそれらを文章にまとめてレポートする力を身に付けることでもある。	○	◎		
	地域貢献ボランティア		2	2	「地域貢献ボランティア活動を通して地域社会に積極的に参加できる人材となること」をテーマとする。外国学科のディプロマポリシーの一つとして、学生が卒業するまでに「海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度」を身に付けることを目標としている。本科目は、その目標を達成する一助として位置づけられた科目である。具体的には、アジアノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動への参加である。学生は、ボランティアを通して、地域の人々と共にふれあい、活動することで、地域社会に貢献しようとする心や姿勢を持ち、地域社会の一員として積極的に活動できる人材の育成を到達目標とする。			◎	○
キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ		2	1	テーマ:ディプロマポリシーの「態度」を達成するために、在学中に国内外の社会について関心を持つとする態度を育み、卒業後の進路、社会的・経済的自立を見据えた学生生活の建設的計画を考える。 到達目標:教養・コミュニケーション力・自立性・責任感・判断力など社会が求めている人間像について考え、各自が具体的な目標を掲げて学生生活を過ごすことのできる基礎力を身につけること。				◎
	キャリア開発Ⅱ		2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。			◎	
情報教育科目	情報処理Ⅰ		2	1	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	◎			
	情報処理Ⅱ		2	1	「アプリケーションソフトの応用操作」をテーマに、コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピュータリテラシーを理解することを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適應する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。	◎		○	
総合A群	フランス語Ⅰ		2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。	◎		○	
	フランス語Ⅱ		2	1	「フランス語で会話を楽しむことができる」をテーマとし、フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。	◎		○	
	ドイツ語Ⅰ		2	1	初めてドイツ語に接する受講者にとって、まずドイツ語の楽しさを肌で吸収してもらいます。ドイツ語だけではなく、ドイツ語を話す国々の社会情勢も学んでもらいます。基本的な文法を学びながら、まず自分の耳で聞くドイツ語、自分の口で話すドイツ語を身に付けてもらいます。そして自己紹介をドイツ語で行えるようにします。	◎		○	
	ドイツ語Ⅱ		2	1	ドイツ語Ⅰで学んだ初歩のドイツ語から更に上の段階を目指して、基本的な文法を踏まえて簡単な会話ができるようになる。そしてドイツ語Ⅱでは、「ドイツ語を書く」ことにトライしてもらい、最終的にドイツ語で志願書を書けるようにします。	◎		○	
	中国語Ⅰ		2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく句型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である	◎		○	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
言語教育科目		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋学期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、春学期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎		○	
		日本語ⅠA	2	1	本講義では、初級～中級レベルの学習者に必要な文字、語彙、文法などの学習を進めると同時に「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の中でも特に「書く」能力の向上を図る。生活の中で必要な日本語や留学生活に必要な「書く」能力をつけるために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の練習を積み上げていき、アカデミックレベルの文章が書ける技術へと繋げる。	◎		○	
		日本語ⅠB	2	1	本講義では、初級～中級レベルの学習者に必要な文字、語彙、文法などの学習を進めると同時に「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の中でも特に「書く」能力の向上を図る。生活の中で必要な日本語や留学生活に必要な「書く」能力をつけるために様々な場面に応じた表現や文章の書き方の練習を積み上げていき、アカデミックレベルの文章が書ける技術へと繋げる。	◎		○	
		日本語ⅡA	2	2	本講義では、中級～中上級学習者に必要な文字・語彙などの学習を進めると同時に「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を総合的に学ぶ。日本語能力試験N1レベルの日本語能力を養うことを到達目標とする。	◎		○	
		日本語ⅡB	2	2	本講義では、中級～中上級学習者に必要な文字・語彙などの学習を進めると同時に「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を総合的に学ぶ。日本語能力試験N1レベルの日本語能力を養うことを到達目標とする。	◎		○	
		応用日本語ⅠA	2	1	本講義は、初級～中級レベルの学習者に必要な文章を読む技術を学ぶ授業である。多面的な読み方の力をつけるために、様々なジャンルの文章を理解するとともに、文字、語彙、表現などを身につける。文章を読んで何が書いてあるのかをとらえるといった「読解」の力を伸ばすことができる。日本語能力試験でも十分に力が発揮できるようになる。	◎		○	
		応用日本語ⅠB	2	1	本講義は、初級～中級レベルの学習者に必要な文章を読む技術を学ぶ授業である。多面的な読み方の力をつけるために、様々なジャンルの文章を理解するとともに、文字、語彙、表現などを身につける。文章を読んで何が書いてあるのかをとらえるといった「読解」の力を伸ばすことができる。日本語能力試験でも十分に力が発揮できるようになる。	◎		○	
		応用日本語ⅡA	2	2	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語教員として相応しい日本語の修得を到達目標とする。	◎		○	
		応用日本語ⅡB	2	2	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語教員として相応しい日本語の修得を到達目標とする。	◎		○	
		日本語研究ⅠA	2	1	「日本文化をより理解しよう」をテーマとします。日本文化を理解し、日常生活に必要な日本語を話すこと、それを楽しく感じるようになること、それが到達目標です。	◎		○	
		日本語研究ⅠB	2	1	「日本文化をより理解しよう」をテーマとします。日本文化を理解し、日常生活に必要な日本語を話すこと、それを楽しく感じるようになること、それが到達目標です。	◎		○	
		日本語研究ⅡA	2	2	今後の大学での充実した学びを目的に、留学生の日本語能力の更なる向上と、日本文化のより深い理解を図る。日本の歴史と地理を学ぶために必要とされている日本語教員として相応しい日本語を修得することを到達目標とする。	◎		○	
日本語研究ⅡB	2	2	今後の大学での充実した学びを目的に、留学生の日本語能力の更なる向上と、日本文化のより深い理解を図る。日本の歴史と地理を学ぶために必要とされている日本語教員として相応しい日本語を修得することを到達目標とする。	◎		○			
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。	◎	○		
		文学への招待	2	1	「日本の詩——古典から現代まで」をテーマとします。これまで日本人に親しまれてきた名作の英文対訳アンソロジーを参照しながら、日本人のこころにやどる美意識が、それぞれの時代に、どのように言語化されてきたか、それを理解することが目標です。	◎	○		
		生涯スポーツ論	2	1	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。			○	○
		生涯スポーツ実習	1	1	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。			○	○

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合群	世界認識・自己理解	哲学	2	1	テーマ: 哲学は言葉がよく使えること。人はすべて「哲学」する。それは人が「考える」からである。「考えない人」も「考えている」のである。いずれにしろ人は言葉を使って他とコミュニケーションするだけでなく、自分のことにも「考える」のだから。すでに言葉を使うとき、人は「哲学」をしている。そこで、ここでは、われわれが「言葉」を使うとき、それも意味の深き言葉が利用できるとき「哲学」している、というのがわかることを目標とする。	○	◎		
		心理学	2	1	心理学とはどのような学問領域なのか、それを学ぶことがこの科目のテーマである。哲学、社会学、精神医学などどのように異なるのか、理解する。心理学は人間の心の働きを研究する学問領域である。人が生活している環境から、どのように情報を取り入れ、蓄積、活用するのか、如何に人間関係の中で適応的に生きていくのか、などに関し学び、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。また、その学びの中で、心理学を学ぶ楽しさを感じてほしい。	○	◎		△
		多文化理解	2	1	テーマ: 異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。到達目標: 人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なるものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。	◎	◎		○
	社会と制度	日本国憲法	2	1	<到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 <テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。	◎	○		△
		民法	2	1	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身につけることを達成目標とする。	◎	○		△
		経済学	2	1	[テーマ: お金とゲームと世界経済] 「株が高い低い」とか「円が安くなった」とか、あるいは「石油の値段が高止まり」とか、なぜそんなニュースがほぼ毎日流されるのだろうか。たとえばトランプ大統領が中国製品に高額な関税を課したって！それはいったいなぜだろうか。もちろん、それは米国人の会社やそこで働く人びとに仕事を与えたいからだ。もし「円が安い」となれば日本の会社は海外の国へ商品売りやすい。海外の会社は日本へ商品がなかなか売り難い。われわれが海外から輸入される商品が高くなってあまり買わなくなるからだ。こんな出来事で、われわれの生活が世界の経済の動きと一緒に成り立っているのだ。お金から経済を見ると世界の動きも理解できる。お金はゲームと同じだからだ。そこで、ここでは経済の世界での動きをマネーゲームとして理解することを到達目標とする。	◎	○		
		社会学	2	1	社会学は受講者自身が生活する場所と、生活そのものを見直す学問である。社会学を知る。これがテーマである。学問分野として社会に浸透しているため基礎概念や独自の発想を理解することも大切である。有り体に言えば、公務員試験などの受験科目になっているからである。従って、到達目標は社会学の基礎知識の取得である。社会学的思考法について知ることも目標の一つとしておきたい。	◎	○	○	△
	自然と数理	環境科学	2	1	地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとして、地球環境全般に関わる知識を修得して科学的に理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。	◎	◎		○
		物理学	2	1	身の回りにある物品や事象を平易な物理学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれの事象が物理学のどの分野に相当するのか、およびその数値で把握できるようになることとする。	◎	◎		
		化学	2	1	身の回りにある物品の成り立ちや効能を化学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれが化学のどの分野に相当するのかを把握できるようになることとする。	◎	○		
		統計学	2	2	自然現象や社会現象についての量的データを統計的に整理したり分析したりすることは、計画立案や意思決定に有用なことである。つまり、社会ではデータを整理し分析する能力が求められるとも言え換えることができる。本講義では、その統計学の入門をテーマとして、目的達成のためにどのようなデータを集め、それをどのように整理して、分析結果をどのように読み取るかという能力を涵養するのが到達目標である。	◎	○		
		数学	2	1	論理的な思考をテーマとして、大学生として修得しておくべき基礎的な数学に関する知識と問題を解法するための力を養い、多種多様な物事を論理的に思考するための能力を身につける。このテーマを実現するために、同一数式を対象とした異なる解法に関する検討、言語情報から非言語情報への変換に関する検討、諸課題の整理と論理的思考による解法に関する検討ができるようになることを到達目標とする。	◎	○		

学部名	外国語学部	学科名	外国語学科
-----	-------	-----	-------

外国語学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	日本の文化・歴史・芸術などについて、海外で英語で語れるようになるために日本に関する知識を身につけている。また、諸外国人と英語で正確なコミュニケーションをとるために英語学(音声学や文法や言語的構造)に関する知識を身につけている。教職希望者は教育現場で英語を指導できる知識を身につけている。さらに、国際ビジネスに関する専門的知識と、人間関係の築き方やリーダーシップの取り方を理解している。
DP2	思考・判断	海外留学で異文化を体験することによって、冷静かつ論理的に思考し、公正な判断をする力を身につけている。また、インターネット等で集めた情報のうち有用なものを吟味して仕事や研究の分野で活用でき、論理的に思考し、説得力のある文章を書ける力を身につけている。
DP3	技術・行動	外国のいかなる地域においても他者を尊重し、英語で正しく自国と自分とを語ることができるコミュニケーション力と自己表現力を備えている。さらに、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題を発見し、主体的に解決する行動力を持っている。また、演習科目では集団活動や共同研究で共に学び、ともに取り組む姿勢を身につけて、専門諸科目を通して身につけた教養と問題発見・解決能力で世界を舞台に活動している企業や民間団体などでも積極的に行動できる能力を身に付ける。
DP4	態度	日本の文化に興味をもち、海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度を持っている。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門教育科目群	ジャパニスタディ	生き方	2	3	春	「先達に学ぶ、人生のより良い『生き方』」をテーマとし、これまで日本を創ってきた人々、豊かで平和な社会を築いてきた人々の〈生〉の声を聞き、学生一人ひとりが、この国や社会のためにできることは何か、また自らが幸福な人生を送るために何をすればよいのか…等、それぞれが自分のあるべき将来について考える。そうすることで、今の自分を見つめ直すことができるようになる。また、自分の〈志〉を確認できるようになる。				◎
		日本のことば	2	1	春	日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」(日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など)の教育内容の理解を目指す。また、ことばは、特定民族の文化、価値体系、世界観などと深くかかわって形作られており、日本語について社会言語学的な視点から理解を深める。学生は、日本語の特徴を学び、日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解するとともに、それを教授することができるようになることを到達目標とする。		◎	△	
		日本の芸術	2	1	春	「外国の人々に伝えるための日本の芸術を理解する。」をテーマとして、国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。 具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。	◎			○
		日本の歴史	2	2	秋	我々は、高度に発達しつつ、なおも不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を推進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返してはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。	◎			
		日本の経済	2	2	秋	「日本経済のグローバル化と社会経済の変化」をテーマに、ここでは世界の中における日本経済の置かれた位置や立場を考える。そこで、現在の経済・財政・金融で使われている、ちょっと難しそうなお言葉に慣れることから始めたい。経済や財政、そして金融のデータやグラフを見て、それからどんなことが読み取れるかも一緒に考えよう。また、現在、世界的に経済が不安定であるが、それはどうしてなのか、その原因はどこにあるのかなどを考える力も身に付けよう。そして、日本と世界とが経済的にどうつながっているのかを、入門編として、それを理解し考えられるのを到達目標とする。	◎			
		クールジャパン論	2	2	春	This course of (English language) lectures is designed to educate Japanese students (who, in most cases, have spent little or no time overseas and, at best, only very limited time with non-Japanese persons) how they themselves can formally and informally speak (and, by extension, write) compellingly, and at length – in English – about Japan and things Japanese. Specifically, it is designed to improve student awareness in regard to 'good' and 'positive' Japan-centered topics that are likely to appeal to, interest, impress, inform, educate and potentially benefit non-Japanese English language users (of all ages and backgrounds).	◎			○
		日本論ージャパノロジー	2	3	秋	「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。アウトサイド・イン、インサイド・アウトといった立ち位置のことである。当授業の目的は受講者が日本という対象を論じるべく、かかる態度を身につけることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらいたい。自身の日本観を持ち日本論を展開してもらいたい。	○			◎
英語学	英語学Ⅰ	2	1	春	テーマ:英語という言語の特色を歴史的背景から理解し、その役割・実態を探る。 到達目標:英語がどういう仕組みを持っているのか、どのような規則によって成立しているのか、またどのようにしてそれが運用されているのかを、音声・形態・統語・意味・語用・文体の面から探り、理解する。	◎			△	
	英語学Ⅱ	2	1	秋	テーマ:英語運用能力向上のための英語文法力の強化 到達目標:文法力の強化により、英語4技能を実践的に使えるようにする	◎				
	英語学Ⅲ	2	2	春	テーマ:英語の多文化性の需要と相互理解を図る 到達目標:1)英語の国際的普及がもたらした英語文化の多様化について理解し、またそれによって生じた新しい問題の提起と解決策を見つけ出していく。2)世界の英語に関する事情や情報を知り、英語による円滑なコミュニケーションの方法を考えることができるようにする。	◎		○	○	
	英語学Ⅳ	2	2	秋	日本語と英語の文法もしくは言語的特徴を比較し、それぞれの言語がどのように異なるかを考察する。英語を第2言語として使用する日本および日英語圏の人にとって、何が理解しやすく、また逆に難しいかについて学習する。	◎				
	英語文学Ⅰ	2	2	春	普段の我々人間の生活について現代口語英語で書かれた作品を読む。学生が自分自身の生活とその作品が示した世界との共通点と相違点を学び、学生自身の世界観と英語の表現力をひろげる	◎				
	英語文学Ⅱ	2	2	秋	より長い英作文を読む力と理解力を養う。その上で学生自身が「面白い」と感じる文学作品の基準をより広くすることが目的である。語彙と表現力を増やし、知識を定着するためには多大な努力が必要であるため、各授業時に反復学習とミニテストを実施する。	◎				
	英語音声学Ⅰ	2	1	春	Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and – in so doing – enhancing listening comprehension / aural competency). Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' – or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).	◎				
	英語音声学Ⅱ	2	1	秋	Theme: For intonation and rhythm: linking, elision, assimilation, dropping of sound Aim: Building on progress made in English phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and mastery of English language pronunciation.	◎				
	英語リーディングⅠ	2	1	春	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.	◎				

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門教育科目群	英語コミュニケーション	英語リーディングⅡ	2	1	秋	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express his / her own opinions and responses regarding study text content;	◎			
		メディア英語	2	2	春	The main goal of this class will be to give students the chance to use English in various media platforms. Students will use the four English skills (reading, writing, listening, speaking) to present their ideas and interact with each other.	◎			
		エクステンシブ・リーディング	2	2	秋	One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.	◎			
		英語ライティングⅠ	2	1	春	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.	◎			
		英語ライティングⅡ	2	1	秋	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.	◎			
		ブラクティカル・ライティング	2	2	春	To become familiar with and be able to create or complete various documents and texts that are used in business, official and academic fields, as well as those that are commonly needed in everyday life.	◎			
		アカデミック・ライティング	2	2	秋	This course mainly aims to improve the linguistic and cultural competence of students with special focus on writing skills in English. 海外研修や英語での学修にとって必要な言語的および文化的な英語の素養を習得し、大学生としてふさわしい知的水準の文章を英語で書けるようになることを到達目標とする。	◎			
		英語オーラルコミュニケーションⅠ	2	1	春	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. The objective of this course is to increase the capacity and willingness of students to express themselves in a reasonably articulate, correct and comprehensive, yet lucid and succinct manner. By the end of the course, students should be better able to communicate effectively and carry on general conversation about common topics, above all those familiar to them. This course should help students to attain up to and / or beyond CEFR A2 level competency.			◎	
		英語オーラルコミュニケーションⅡ	2	1	秋	Theme: Getting used to Natural English The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities. Also, by having listening practice, students can understand what others are saying and respond properly.			◎	
		英語オーラルコミュニケーション演習Ⅰ	2	3	春	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs, instruction. At the end of the course, students should be: a) better able to more communicate effectively in all 'real-life' situations and; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; c) better prepared to enroll on the similar but more advanced English Oral Communication Exercise II course.			◎	
		英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ	2	3	秋	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs, instruction. At the end of this course, students should: a) better able - and more willing - to communicate effectively in all 'real-life' situations; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; This 'English Oral Communication Exercise II' course is intended primarily for students who have already completed the 'English Oral Communication Exercise I' course. Students who enroll on this 'English Oral Communication Exercise II' course will therefore receive more advanced and demanding / challenging briefs, instruction and advice compared to that given at the end of 'English Oral Communication Exercise I' course.			◎	
		プレゼンテーション英語	2	2	春	The main purpose of this class will be to help students learn to communicate information effectively through presentations. The focus will not only be on what you say, but how you say it.			◎	
ディスカッション英語	2	2	秋	社会問題等の物事について意見交換と説明ができる英語表現力を身につける。			◎			
専門教育	アクティブ	アクティブ英語Ⅰ	2	2	春	Theme: Fostering comprehensive communication skills Goal: To make it possible to use vocabulary and basic expressions with high frequency and to use them in conversation. Extend non-verbal communication skills such as gestures through pairs or group activities with classmates. This course should help students to attain up to CEFR B1 level.			◎	
		アクティブ英語Ⅱ	2	2	秋	テーマ:様々な場面・状況に応じて、英語でコミュニケーションをとる 到達目標:日本または海外におけるいろいろな状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。また、国によって異なる英語の発音やリズムに慣れ、理解し、対応することができる。英語運用能力CEFR B1レベル以上を目標とする。			◎	
		インテグレイテッド・イングリッシュⅠ	2	3	春	To use and build our English skills. Especially our vocabulary, fluency, and listening. By the end of the course students will be used to communicating on everyday issues and topics and overcoming difficulties and their own language limits.			◎	
		インテグレイテッド・イングリッシュⅡ	2	3	秋	To teach listening, speaking, reading, writing, viewing, and presenting skills to prepare students for success in academic and professional life. This course aims to give a wide variety of activities and help students use all their skills together in order to be a better overall communicator.			◎	
		ビジネス英語Ⅰ	2	3	春	現在の多様化するビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎から応用までを学び、「国際ビジネス環境に対処できる活きた英語を学ぶ」をテーマに、オフィスで外国人スタッフとともに業務を円滑に遂行するために必要とされるコミュニケーション技能を習得する。また各国の文化にも触れ、語学と文化のバリアを越えて対等に相手と交渉できるスキルを身につける。ビジネス通信、貿易英語の理解にも触れる。テキストを基本に進めるがプレゼンテーションをする機会もある。	○		◎	

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
科目群	ラーニング	ビジネス英語Ⅱ	2	3	秋	現在の多様化するビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎から応用までを学び、「国際ビジネス環境に対処できる活きた英語を学ぶ」をテーマに、オフィスで外国人スタッフとともに業務を円滑に遂行するために必要とされるコミュニケーション技能を習得する。また各国の文化にも触れ、語学と文化のバリアを越えて対等に相手と交渉できるスキルを身につける。ビジネス通信、貿易英語の理解にも触れる。テキストを基本に進めるがプレゼンテーションをする機会もある。ビジネス英語Ⅰで習得した知識をもとにより複雑で専門的な、督促やクレームの処理などに対応できる能力を習得する。	○		◎	
		TOEICストラテジーⅠ	2	1	秋	テーマ:英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標:TOEIC400-500	◎			
		TOEICストラテジーⅡ	2	2	春	The TOEIC listening and reading test measures the everyday listening and reading skills of people working in an international workplace environment. The test consists of four different kinds of listening passages, and four different kinds of reading sections. This course will focus on listening and reading in the style of the TOEIC questions. That includes listening and reading within a given time limit. Of course this course will slow down and examine individual questions to help students understand the content as well as the best techniques to answer the questions quickly and correctly.	◎			
		ラーニング・スキルズ	2	2	春	Theme: Explore English learning strategies Goals: Develop the four essential English skills – Listening, Reading, Speaking and Writing			◎	
		リサーチ・スキルズ	2	2	秋	Theme: research methods and methodology Goals: The students will acquire the basic knowledge about various research methods and methodology in order to conduct research by themselves.			◎	
ALL ENGLISH	日本文化論	2	3	春	Goals: One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world. Theme: Japanese culture and traditions in the precarious world.	◎				
	芸術文化論	2	3	春	Goals: The students will acquire a broad overview to art and culture, including basic knowledge of aesthetics and art history essential to cultural life and personal fulfillment. Theme: Art, culture and aesthetics	◎				
	国際関係論	2	3	春	Theme: Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such inter-disciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.	◎				
	国際政治経済学	2	3	春	国際政治経済学(International Political Economy 通称IPE)に関する基礎的な理論をサーベイし、専門用語も含んだ英語による当該分野の理解力を深める。また、国際情勢について英語で議論できるよう、基礎的な知見を身につけ英語で専門性の高いディスカッションをうまくこなせるようになることを目指す。	◎				
	地球環境論	2	3	秋	Goals: The students will acquire a broad overview to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The students will discuss how global environmental issues have been studied in social sciences. The interdisciplinary nature of environmental studies will be addressed by discussing the links with natural sciences and other relevant approaches. Theme: theoretical analysis of environmental studies	◎				
	多文化教育論	2	3	秋	Goals: This course focuses on the meanings of Multicultural Education for children. It is more popular to meet multicultural situation in Japan. That means we need to think about the similarities and differences between our culture and others. We will find this course the knowledge of Multicultural Education and how important to provide Multicultural Education to children. Theme: Multicultural understandings and Educational effects for children	◎				
	人間行動研究	2	4	春	人間はいつも同じ事をしていくわけではなく、行動は変更し発達する。ヒトの行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観的に学ぶ。その上で、グループワークを通して、実社会で活用できる、人間の行動について研究する方法を学ぶ。	△		◎		
国際開発研究	2	3	秋	世界にはまだ多くの開発途上国、地域が残されており、その開発問題は、貧困や基本的人権に関わる課題を有しており、戦争、紛争などの原因となっている。そのため、国際社会はこれまで、ミレニアム開発目標MDGsをつくり、さらに持続的開発目標SDGsをつくり全世界で取り組むことが国連で決議された。本演習では、これまでの国際社会の取組みをレビューすると共に、開発途上国の開発問題をその課題毎に、分析すると共に、多角的な視点で解決策を模索する方法を学ぶ。		○	◎			
グローバルビジネス	日本の文化経済	2	3	春	日常生活で人びとからあまり意識されない文化が、経済活動では意外に反映したものとなっている。たとえばインドではベジタリアンが多いが、ヒンドゥー文化とイスラム文化とを抜きに、インド人が牛肉や豚肉を食べない理由を探し出すことは難しい。イスラームにおいて「許されている」を意味する「ハラール」が、食材や食品でつかわれ、わが国でもそれが一般人まで浸透しているのは周知の通りである。グローバル経済が一般化する今日、学生は経済活動と文化が密接な関係にあることを理解する必要があるため、そうした事例を通して現代の文化経済を研究する方法を身に付ける。	△	◎		○	
	地域観光資源	2	3	秋	岡山地域の観光資源に関する知識と理解を深めることをテーマとして、観光資源の現状を把握し今後の展望を考えられるようになることを到達目標とする。	◎	△			
	企業戦略マーケティング概論	2	3	春	テーマ:戦後の経済発展の礎となったのはアメリカから導入されたマーケティングの考え方であった。市場細分化、製品陳腐化そして製品差別化戦略。Marketingのingは戦略を表す。特に製品差別化のブランド戦略はごく身近な商品にまで及んで我々のすぐそばで展開されている。授業では、アクティブラーニングも加えながら、市場戦略のおもしろさを理解する。 到達点:経済の身近にある事象への問題意識が持て、初歩的な常識が身に付く。	○	◎			
	国際ビジネス論	2	3	春	国際化した経営環境に対する経営の取り組みをテーマとする。今日、ビジネスの世界で活躍するためには経営学と国際ビジネスについて一般的な知見を得る必要があり、これが目標となる。個別企業の動向を評価できるようにしたい。	◎				
	ビジネスの基礎知識	2	3	春	「法人(組織)の構成員や企業家としての国際的な組織行動および国際的な企業活動の基礎知識を修得する」をテーマに、マナーやコミュニケーションツールのみならず、「法人(組織)とは何か、法人・企業活動における会計・財務の仕組みを理解し、人+モノ+お金の流れに必要な英語で書かれた文書を理解し、また、英語で表記・表現できるようにする。」を到達目標とする。	◎	△	○		
	貿易実務	2	3	春	「貿易実務(国際商取引の実務)を理解する」をテーマにし、「貿易実務の知識と技術を兼ね備え、グローバルなマナーやルールに則り仕事を考えられるようになる」を到達目標とする。	◎	△	○		
	IT応用論	2	2	秋	種々のソフトウェアのデータの相互活用方法を理解しておくことは、日本と世界を取り巻く社会問題の理解、また自己の生活の中にある諸問題を発見し主体的に解決する上で、パソコンを有効に活用するための予備知識として非常に有用なことである。 本講義では、コンピュータを中心としたデータの受け渡しをテーマとして学習する。CAD・3次元コンピュータグラフィックス・動画編集・DTMなどを使いこなし、データの相互有効活用ができるようになることを到達目標とする。	◎		△		

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
国際 教養 科目 群	グローバル人材論	2	3	秋	この講義では、地球上のどこでも活躍できる「グローバルな人材となること」をテーマとするが、それに必要なのは、まず自分がどんな人物なのか、どんな特徴をもっているのか、あるいはどんな仕事に適しているのかなどを知り、そしてそれを自覚することからはじめなければならない。もちろん海外の人と話し合ったり交渉したりすることも大切であるが、その前に自分たち日本人同士の挨拶や話し方は大丈夫なのであろうか。今、企業の人が見れば、どう対応するのがよいのだろうかなど、それらを知らずして海の向こうを考えていても仕方がない。そこで、就活には欠かせない筆記試験対策から面接・面談などの準備を含めて、ここでは社会に飛び立つ人材になるのが到達目標である。	◎			△	
		2	3	春	問題を発見し、分析する。解決策を探して解決に到る。簡単なことのように思えるが、筋道を立てて行うとなると案外、難しい。どのようにするか、そのコツを教えたい。これが本講義のテーマであり、目標であるが、だが、出来るようになるかと言えば、受講者の努力次第と言うほかない。すべての糸口になる問題発見にしたところで、誰でも発見できるわけではない。何事もないかのように見える日常の中で、「問題はないか」と問いつづける人にだけ問題は見えてくる。そうした姿勢を持てるようになることが、実社会から期待されていることであり、当科目の到達目標なのである。		○	◎		
	カル チャー サイ エンス	専門日本語(科学)	2	3	春	科学に関する知識と理解を深めることをテーマとして、科学に関する文章を読み内容を理解する力を養うことを到達目標とする。	◎			
		専門日本語(産業)	2	3	春	「伝統文化と先端科学の産業に関わることを理解する」をテーマとする。日本の「産業」と聞くと科学技術的イメージが先行するが、産業全体には、そのほかにも伝統文化に基づいた産業も現在まで伝わってきており、国内外に知られた重要なことばもある。過去から現在までの「産業」に関わる日本語を歴史的背景などを意識しながら理解し、表現できるようなることを到達目標とする。	◎	△		
		専門日本語(IT)	2	3	秋	ScratchやJavaScript、VBAによるプログラミング、HTMLの仕組みなどを通して、またLittleBitsを使ったロボットプログラミングを体験することにより、ICT(IT)関係の外来語の言葉の意味を理解する。そして、目まぐるしく変化するICTの、利用者としてだけでなく開発側の基礎的な知識を身につけるのが到達目標である。			◎	
		色彩の科学	2	2	秋	色彩に関する知識を身に付けることをテーマとして、この知識をもとに色彩について論理的に考える力を養うことを到達目標とする。	◎	○		
		モノをはかる技術	2	3	秋	「『はかる』技術を理解する」をテーマとして、歴史的な背景や有用性などを書籍・学術論文・企業の説明資料などを通して理解する。「『はかる』技術を一般の人に説明できるようになる」を到達目標とする。	◎	○		
		ロジカルシンキング	2	2	秋	「論理思考能力を開発する。」をテーマとして、自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。			◎	
人と地域の社会学		2	3	春	「地域の再生」をテーマに、少子高齢化、過疎化、耕作放棄・限界集落などの社会問題を抱える地域社会の現状と、「食」や「農」、伝統工芸、文化遺産などに焦点を当てた地域再生の取り組みについて考察する。地域社会における自らの存在理由を問い、地域のリーダーとして問題を発見し、解決できる力を養うことを到達目標とする。			◎	○	
異文化理解		2	1	秋	異文化を理解し、国際交流を促進できる積極的思考で物事を考えられる人材、又は、人材育成に資する能力取得を目指す。異なる文化への理解と寛容性を持ち、他者とのコミュニケーション能力向上のために、様々な国の文化・宗教・政治的背景、また社会課題を学ぶ。また、英語が使用されている国・地域の文化を通して英語での表現力の育成とともに高等学校での英語教科授業に資する知見を身に付ける。履修者自ら関心の高い文化圏の特徴を調べ、発表をする機会がある。	◎	◎	△	○	
実習	インターンシップⅠ	2	2	通年	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。		△	◎		
	インターンシップⅡ	1	2	通年	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。		△	◎		
	インターンシップⅢ	2	3	通年	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。		△	◎		
	インターンシップⅣ	1	3	通年	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。		△	◎		
	スタディ・アブロード事前指導	2	1	秋	2年次より開講の「スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ」に向けての事前準備を行う。実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。	○	◎	◎	○	
	スタディー・アブロードⅠ	4	2	通年	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。		○	◎		
	スタディー・アブロードⅡ	6	2	通年	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の思いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。		○	◎		
	スタディー・アブロードⅢ	6	2	通年	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の思いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。		○	◎		
基礎 演習 Ⅰ	基礎演習Ⅰ	2	1	春	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学ぶ。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけることを目的とする。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方を学ぶ。		○	◎		
	基礎演習Ⅱ	2	1	秋	基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学ぶ。特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考える。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まる。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目である。		○	◎		
	演習Ⅰ	2	2	春	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習ⅠとⅡで学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。		○	◎		

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
演習・卒業研究	演習Ⅱ	2	2	秋	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。		○	◎	
	演習Ⅲ	2	3	春	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。		○	◎	
	演習Ⅳ	2	3	秋	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。		○	◎	
	卒業研究Ⅰ	2	4	春	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅰでは、各自のテーマを決定する。また、そのテーマに沿って、論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定を行う。調査を必要とする場合には質問紙法、面接法、参与観察法などから適切な方法を選定しなければならぬ。研究の一連の過程を経験することで、問題発見力、主体的に解決する行動力、論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得する。		○	◎	
	卒業研究Ⅱ	2	4	秋	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。		○	◎	
教職関連科目	英語科教育法Ⅰ	2	2	春	テーマ:英語教授法と授業計画書の作成 到達目標:英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、試験に関する実施方法の習得を目標とする。	◎	○	◎	○
	英語科教育法Ⅱ	2	2	春	テーマ:英語教授法と授業計画書の作成 到達目標:英語教育に関する理論を実践に活かして、英語の実践的な指導方法を具体的に学ぶことを目標とする。	◎	○	◎	○
	英語科教育法Ⅲ	2	3	秋	テーマ:現在日本の中等教育現場の教育指導 到達目標:現在日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。	◎	○	◎	○
	英語科教育法Ⅳ	2	3	秋	テーマ:グローバル人材育成の観点から見た英語科教育法 到達目標:最新のCLT(Communicative Language Teaching)の理論を十分に理解し、教育実習で実践できる力を身につけることを目標とする。	◎	○	◎	○
	教育原論	2	1	春	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身につける 【到達目標】 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育(学校)をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度(学校など)の役割について自身の意見を持つ	◎	◎		○
	教職論	2	1	春	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	◎	◎		○
	教育行政学	2	1	春	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する 2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する 3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する 4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する 5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する 6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようになる	◎	◎		
	教育心理学	2	1	秋	1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与する教育心理学的知識を身につける	◎	◎		○
	特別支援教育	1	3	春	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・制度を理解し、障害の理解と指導方法に関する知識が備わっている。	◎	○		
	教育課程論	1	1	秋	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する。また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。	◎			
	道德教育の理論と方法	2	2	秋	道德教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力を養う。 基礎理論としては、道德の本質、道德教育の歴史、道德性の発達理論、道德教育の役割と課題、道德教育の授業理論について理解する。また、実践力については、道德の時間の指導案作成、模擬授業、総合単元的な道德学習の構想作成を通して、道德の時間の指導法を身に付ける。	◎	◎		○
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	春	特別活動は、集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行う活動である。集団や社会の一員として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を持ちながら自主的、実践的な育てることを目標にしている。また、総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。これらの教育方法上の特徴ゆえに、教科指導とは異なる役割を担っている。 本授業では、下記の3点を目標に学修し、学級活動及び総合的な学習の時間の学習指導案や活動計画を書き、授業構成ができるようにする。 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、内容を理解する。 2. 特別活動の指導法を実践的に理解する。 3. 総合的な学習の時間の指導計画を作成し、指導と評価の考え方を理解する。	△	○	◎	
	教育の方法と技術	2	2	秋	テーマ:主体的・対話的で深い学びを実現するための授業設計を考え、実践できるようになる 到達目標 1: 教育方法に関する基礎理論及び実践を理解している 2: 授業を構成する諸要素について理解している 3: 子どもたちの学習の観点から授業デザインをする方法を理解している 4: 主体的・対話的で深い学びとは何か、それが求められる背景を理解している 5: 情報機器を活用した効果的な授業方法について理解している 6: 情報活用能力(メディアリテラシー)について理解し、その育成の手法を考えることができる 7: 上記を活用して学習指導案を作成することが出来る	◎	○	◎	○

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
生徒・進路指導論	2	3	秋	生徒・進路指導論は、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付けるものである。この授業では到達目標を次のように設定している。(1)生徒指導の教育課程上の位置付け及び意義や重要性を理解するとともに、その方法原理及び生徒指導体制を理解する。(2)すべての生徒を対象とした積極的生徒指導の進め方を理解する。(3)様々な生徒指導上の課題の様態と対応の在り方を理解する。(4)進路指導及びキャリア教育の教育課程上の位置付け、意義や重要性を理解するとともに、その原理及び指導体制を理解する。(5)ガイダンスの機能を生かした進路指導及びキャリア教育の意義や留意点、キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法を理解する。	◎	◎		○
教育相談の基礎	2	2	秋	学校教育相談の基礎は、学校教育相談を進める際の基礎的知識を学ぶものである。この授業では到達目標を次のように設定している。(1)学校教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する。(2)不適応や問題行動等の意味を理解し、カウンセリングマインド及びカウンセリングの基礎的な技法を理解する。(3)不適応や問題行動等の課題に対し、組織的な取組や専門機関等との連携の必要性を理解する。		○	△	◎
教育実習指導	1	3	秋	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および自分自身の問題点の確認と克服を目標とする。	◎	◎	◎	◎
教育実習Ⅰ	2	4	春	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。	◎	◎	◎	◎
教育実習Ⅱ	2	4	春	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。	◎	◎	◎	◎
教職実践演習(中・高)	2	4	秋	これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能を補完する。到達目標は、教師らしくなることである。	○	◎	◎	◎
介護等体験の研究	1	1	秋	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。		△		△
日本語教材の研究	2	3	春	本講義のテーマは日本語教授のためにどのような教材・教具があるかを理解し、学習者の目的に合わせて選定する判断力を養うことである。到達目標は、初級、中級、上級レベルに合わせた教材や教具を的確に選定し、授業をコース・デザインすることである。	◎	◎	○	○
日本語教育実習	1	4	春	日本語教育機関における日本語教育実習である。日本語教授者として授業を運営する能力を習得し、実践的な指導力や知識・技術を養うことを到達目標とする。	◎	◎	○	○